

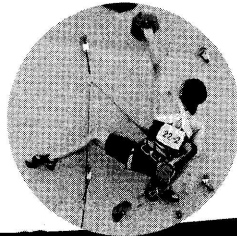
発行所 愛知県山岳連盟
 発行人 安藤 武典
 編集人 中平等 新一
 名古屋市天白区中平3-1902
 TEL&FAX 052-802-8062

◆11月30日(金) 「遭難を考える」講演会(県スポーツ会館) <http://www.geocities.co.jp/Athlete/1653/>

第73回国体・東海ブロック山岳競技岐阜大会

～少年男・女が総合1位で全国大会に出場～

写真は、左から少年男子1位(小宮山敦士、野中凜)少年女子1位(石井未来、倉菜々子)成年女子4位(三浦真理子、磯部有生)の各選手



読図講習会2018

初心者対象に大高緑地公園で!

5月19日(土)名古屋緑地公園において、初心者対象の読図講習会・実践教室1を実施しました。

今年から初級コースを大高緑地公園、中級コースを猿投山という2段階構成とし、初級コースは例年より時間を短縮してコンパスの使い方を重点に実地講習を行いました。

当日は快晴に恵まれ、受講生14人、指導員7人の計21人で、9時から12時までの3時間の講習を芝生広場でコンパスの基本的な使い方(コンパス1・2・3)を何回も繰り返し練習しました。

その後、各班(3班)に分かれてコンパスを使用し、配布された地図に記載されている複数のWP(WAY POINT)を目指して歩きました。

終了後、参加者から「コンパス1・2・3は非常にわかり易かった」「できれば歩測の講習もやってほしい」などの感想があった。(岩瀬幹生)

〔河合講師評〕

今年で講習会は7年目になります。コンパスの使い方の特化した講習会は全国的にもあまり開催されていない

ように思います。そのため、コンパスの使い方は実はやってみると簡単という受講者の声を多く聞きます。つまり、コンパスの使い方を教えてもらう機会が少ないのです。

そこで、愛知県山岳連盟のこの講習会は、初心者の方のために、コンパスの使い方だけに特化した講習会にしています。

さて、講習会の内容ですが、「コンパス1・2・3」が要で、これが講習会のすべてと言ってもよいでしょう。しかし、実際の地図には等高線が入り、実際の講習エリアは藪があるので方向感覚がズレ、ポストを探ることが難しくなっています。この方向感覚のズレを修正するのは実体験の積み重ねになりますが、初心者の講習会では少しのズレは致し方ないと思っています。それよりも、1回でもいいから、藪の中に設置されたポストをコンパス頼りに発見した時の感動を受講者の方に伝えたいと思っています。この感動こそが地図に興味をもっていたと素直に考えています。(次頁へ続く)

一方、歩測ですが、6年前に初めて開催した頃からしばらくは、距離感も大事と考え講習に取り入れていました。

しかし、実際の登山で歩測をする場面は少ないし、コンパスに特化した内容にしたかったので、この2年間は歩測を行っていません。受講生に、尾根とか谷とか地図の特徴物を教えるのは、良いと思いつつ、歩測は熟練が必要で、初心者には難しいと感じたからです。

今後ともコンパスに特化したこの講習を続ける必要があると思います。講習会の周知の工夫(かなり前から開催時期の周知をするとか、一般の方にも多く来ていただく方法の検討とか)が必要だと思います。

読図講習会実践2を雲興寺へ猿投山で実施

読図講習会実践2を6月2日(土)雲興寺から猿投山で実施し、受講生22人(一般4人)講師他5人の総勢27人が参加しました。

講師には、国立登山研修所講師・河合芳尚氏に担当していただき、実際のフィールドでのコンパス&地図アプリの使い方、地形(尾根・沢・傾

斜変換点など)などについて9時から15時まで講習をいたしました。

〔河合講師評〕

今回の講習会は、スマホの地図アプリを紹介し、道迷いを防ぐために利用、何でも利用することが大切である旨の説明をいたしました。猿投山は地形と地図を確認するには良いフィールドだと思っております。

スマホで現在位置を確認しコンパスで進行方向を確認する。この繰り返しで道迷いは減少するし、地形図の情報量は驚くほど多く、この情報を読む楽しさが少しでも伝わる講習会にしたいと思っております。



読図実践2参加の皆さん

講習会に参加して

読図は楽しい!

名古屋山岳会

太田 陽子

まずはコンパスの使い方から講習開始。「丁寧に教えると、不思議とコンパスは誰でも使えるようになる。」という河合講師の言葉どおり、最初は戸惑いを見せていた方も1時間足らずの練習ですっかりコンパスの操作に慣れ、スムーズに進行方向を特定できるようになりました。その後、スマホを利用した山地図アプリの使用方法を教わり、いざ地図を片手に猿投山へ。

車道を歩いている途中、路肩が1、2m程広がっている場所があり、そのような細部に至るまで国土地理院は地図上に表現していることや、地図上には送電線のみ表記され、鉄塔は描かれていないが、送電線の走り方から鉄塔の位置が推測できることなど、「難しいことではないけれど、教えてもらわなかったら見逃していた」というような、目からウロコな解説が次々と飛び出して、感嘆の連続。登山道に入ってから、予め白地図上に記された目標地点の地形を想像し、その地点まで歩くと

いうことを繰り返しました。早く止まり過ぎたりと、「不安になったらまず立ち止まり、GPSで現在位置を確認すること」の大切さを再認識する良い機会となりました。また、地形は正確に描写されているものの、登山道の位置は地図上ではあまり正確ではないことも新たな発見でした。

午後になると地図読みにも大分慣れ、地図から読み取った地形のイメージと、実際の風景とが合致する確率が高くなり始めたところで講習終了。反省会では「さっそく裏山で地図読みを練習してみよう」などの声がり、読図の面白さに目覚めた参加者が多数。私自身、河合講師の軽快なトークに魅了され、苦手意識があつた読図がすっかり楽しくなりました。

乗鞍青少年交流の家で自然観察会

山菜取りと自然保護講義

自然保護委員長 栗木 洋明

5月12日(日)13日、乗鞍青少年交流の家での自然観察会には6団体31名が参加。

初日の12日は薄曇りではあったが、道中や交流の家に着いてから、乗鞍をはじめ、穂高、槍、笠、黒部五郎、北ノ俣、御岳、白山など周辺の山々が素晴らしくきれいに見え大感激。午前10時には参加者全員が交流の家のキャンプ場に顔をそろえ、予定通り開会式を実施。

その後、車ごとに山菜取りに出発。今年は例年より新緑の進み具合が早く、交流の家から近い場所が山菜取りの適地。我々のグループは午前中に満足できるだけの山菜を収穫。昼食後、早めにキャンプ場に戻って仕分け作業に入った。

14時、収穫した山菜を観察したあと、調理を開始。いきなりできたての天ぷらの争奪戦状態。取拾がつかないぐらゐの勢いにびっくり。材料は上物ぞろゐ、収穫したての新鮮さ、おまけに手慣れた調理の腕前に一同大満足。しばらくして、やっと落ち着きを取り戻し、準備したテーブルで



ゆつくり味わいながら満足のいくまで食べることができた。15時30分、参加者全員にお土産用の山菜も配布し、第一部の山菜の観察会を終了。夕食後、18時半から第二部の講演会。小野木先生の言葉遊びとダジャレを交えたトークに一同圧倒されながら、あつという間の90分を過ごした。20時から22時までの懇親会も喫茶室を貸し切り大盛り上がり。

13日は明け方にあられが降り8時半ごろから雨が降り出した。野外での自然観察会の予定を諦め研修室での講義に切り替えた。自然観察とは何たるかの基本をしっかりと教えていただき、自然保護につ

なげてほしいという、ノンストップでエンドレスな2時間にわたる小野木先生の熱弁による講義に集中。その間、雨脚はますます強くなるばかり。野外での自然観察会を強行しなくて本当によかった。充実した2日間の日程を全て終了し、大満足を実感。私自身、思い出に残る研修会ができたと自負できる会であった。乗鞍青少年交流の家での生活と充実した研修会を结束后、土砂降りの雨の中を帰路についた。

ホノケ山自然観察会 & 清掃登山報告

6月9日、ホノケ山での自然観察会は、4団体、総勢27名が参加。梅雨時の一瞬の晴天、曇り空ではあったが爽やかな空気に包まれ、ラッキーな登山日和であった。

乗鞍青少年交流施設での前回に続き、今回もゴキゲン植物学専科、小野木三郎先生の指導のもと、中身の濃い観察会が実施できた。27名という大所帯であったが、山に響く小野木先生の声は途切れることを知らず、言葉遊びとダジャレを交えた小野木節は参加者の心をとらえ、自然と話の

印象に残った私の登山 18

御池岳で リングワンデルング

名古屋クルッペハイジ

湯川 卓也

私の印象に残った登山は、2007年3月11日、気軽に単独で挑んだ鈴鹿・御池岳のことを一番に思い出す。当時私は年齢20代半ば、本格的に登山を始めてまだ一年も経たぬ頃、若さと勢いと山の怖さを知らずに木和田尾の登山口から白船峠を越え御池のテールランドへと進んでいった。その日、積雪はほとんどなかったものの空は曇りで、風がゴウゴウとうなりを上げて吹いていた。まだ山のことをろくに理解していない私にも、まもなく天気は崩れるという予感があった。そして案の定、テーブルランドに上がった直後から山はその姿を一変、白一色の霧に覆われていた。それでも私は頂上だけは踏んでおきたかったのでテーブルランドの奥地へ侵入し、御池岳の山頂に到達した。しかし、気が付くと天気は吹雪になり、見る見るうちに足元が雪に覆われていく。景色は真っ白で自分がどちらの方向を向いているかもわからない。とりあえずコンパスで方向を確かめて下山ルートの鈴北岳方面へ向かうが、地図を持っていないため自分がテーブルランドのどこにいるかもわからなかった。そして、まっすぐ北東方向に進んでいったつもりだったのに、先ほど通り過ぎた池塘（お花池）のたもとに戻ってきてしまった。いわゆるリングワンデルングは知っていたものの、それを体験したのは初めてだった。そして動転した私は、とにかく山を下りて茨川・滋賀県側への下山を急ぎ、テーブルランドを真っ直ぐ西に向かって下りた。幸い川幅の広い沢に下り立つことができ、川沿いに歩くと林道に出て、君ヶ畑にたどり着いてことなきを得た。

3月上旬の御池を春山と侮っていたこと、地図を忘れたこと、遭難したときに山を下ってはいけないという悪手を繰り返しながらも無事に帰ることができたのは、山の神様のおかげと痛切に感じるところである。

Renopoint
<http://www.renopoint.jp>
Original Wear & Goods
 オリジナルウェア・CMウェア (広告掲載)
 ガジュアルユニフォーム&グッズ
 デザイン・企画・制作
 お気軽に問合せ下さい。
 特許出願 GLASS PERCH(グラスパーチ)
 株式会社リノポイント 〒491-0835 愛知県一宮市あざら1-5-7
 TEL:0586-58-5021 FAX:0586-58-5022 E-mail: ito@renopint.jp

うなぎ錦三丁目 い ぼ しょう
いぼしょう
 〒460-0003 名古屋市中区錦三丁目13番22号
 TEL <052> 951-1166 番
 営業時間 午前 11:00~午後 2:30
 午後 4:00~午後 8:00
 定休日 日曜日・第二・第三月曜日

中に引き込まれていくようであった。

標高737メートルのホノケ山はコースタイム1時間30分ほどで登れる山であるが、午前9時から12時までの3時間をかけ、立ち止まって話を聞いている時間のほうが長いという超スローペースで、感心したり驚かされたりとの連続で興味深く、あつという間の3時間であった。

山頂での昼食タイムも、楽しみにしていた日本海の遠望は望めなかったが、和やかな雰囲気での話が弾み、いつしか会の垣根を越えた会話が盛り上がりがあった。下山時に山頂に登ってきた地元登山者に写真撮影を依頼し、山頂を後にした。梅雨の合間で登山道がしめりがちなので、滑らないように注意しながら下山。下山時も小野木先生の周りには常に人が集まり、一言も聞き漏らすまいという熱意がみなぎっていた。

自然観察会では、今までに何人もの方にお世話になったが、小野木先生ほど熱弁で目から鱗の興味深い話を聞いたことがない。今後も機会があれば、是非また小野木先生の自然観察会を企画したいという思いを強くして会を閉じた。

雨降る中で確保技術講習会 二日間基礎練習や懸垂降下!

6月23日・24日に確保技術講習会を豊田市「鞍ヶ池公園」で行ないました。参加者は指導員8人、受講生22人の30人でした。

初日は開始早々雨に降られました。屋内でまず全体で肩がらみの綱引きをやり、そのあと基礎練習をしまし。その下で基礎練習をしまし。上級2は、日帰り組みが3人あったが、実地訓練をずぶ濡れになりながら講習をつづけました。

終了後は、今日の宿舎「龍溪院」で18人が、山の話しや技術論など語り合い大いに盛り上がりました。

翌2日目は、朝方少し雨は降ったが直ぐに上がり、暑い一日となりました。

初級はドーム横で基礎練習の後で、立木を支点に自己脱出、懸垂降下を行う。上級1は立木を支点に懸垂降下、自己脱出、登り返しなど行いました。

上級2は、石垣でカムをセツトして支点とし懸垂降下、自己脱出など行いました。

途中で女性が気分が悪くなり、氷で冷やして安静にしてもらいましたが、午後2時無



事講習会を終了することができました。(木田 光彦)

講習会に参加して

岡崎山岳会

福田 純代

確保講習会の初級に参加しました。

1日目は、道具の説明からロープワーク、自己確保、懸垂降下など危険な例など入れ解りやすく教えていただきました。

2日目に公園内のブロック壁や植え込みの傾斜を使ってマルチピッチの練習を行いました。

指導員総会開く

平成30年度指導員総会が、6月30日(土)刈谷市中央生涯学習センターで9時から行い指導員35名(委任状23名)が出席しました。

議題は、平成29年度事業報告、30年度事業計画と協力の依頼、指導員の体育協会登録状況の確認、指導員の名称変更など。

また、夏山リーダーについて、義務研修の認定条件の変更について、国体監督について、10月27・28日開催の登攀技術講習会、等について協議し、11時30分終了しました。

※現在 指導員を停止中の方の復活制度があります。

(今後の事業予定)

7/10 気象遭難対策講習会

8/18・19 夏山リーダー講習会

8/19 少年少女登山教室

9/11 県民登山教室・机上

9/25 第2回登山勉強会

名古屋駅前の山用品専門店

駅前アルルス

〒450-0002
名古屋市中村区名駅4-4-10
名古屋クロスコートタワー 1F
TEL 052-565-1417

建設業許可を取りたい、日本国籍を取得したい(帰化)、遺言を公正証書で作成したい、戸籍謄本や除籍謄本を代行取得して欲しい、任意成年後見の相談をしたい、会計記帳を頼みたい等々

ご相談は行政書士の西山秀夫へ

〒460-0002 名古屋市中区丸の内3丁目21番21号
(地下鉄・久屋大通駅から2分) 丸の内東桜ビル1004号室

TEL: 090-4857-9130

URL: <http://www.nygs-office.com/>

- (豊橋) 9/26 (県スポ)
- 9/29(30) 救助技術研修・講習会(御在所予定)
- 10/13 県民登山教室・実践
- 11/30 第22回「遭難を考えよう」講演会(県スポ)
- 12/18 冬山遭対会議・気象予報(県スポ)
- 1/8 指導員集会(豊橋)
- 1/29 (県スポ)
- 2/5 第3回登山勉強会(県スポ)
- 2/19 (豊橋)
- 3/9(10) 雪山研修・講習会
- 3/2 愛知山岳マラソン(猿投山)

平成30年度気象遭難対策講習会

過去の遭難事故例と天気図

～対処の在り方について検討し合う～

「気象遭難対策講習会」が7月10日(火)県スポーツ会館で、午後6時から行われ24人が受講しました。

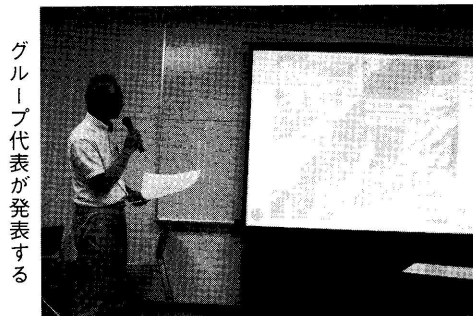
最初に講師の気象予報士・大矢康裕氏の自己紹介ではじまり、講義内容として①過去の山岳気象遭難事故に学ぶ。

②行動シミュレーション③夏の山の天気の見通し。について2時間半にわたり講義を受けました。

講義①は、昭和42年8月1日13時30分頃に発生した松本深志高校の西穂高独標付近を登山中の46人が落雷を受け、11人が死亡、13人が重軽傷を負った事故について、当日午前中の観天望気(12時過ぎから天候が悪化し、大粒の電まじりの激しい雷雨)、死亡者は独標の北斜面に集中、事故現場付近の地形、そして落雷



事故当日の地上天気図について解説をされた。
次に平成21年7月16日の北海道トムラウシ山の事故について、この山は独特の山容で過去にも低体温症による遭難事故が発生しているため、北



グループ代表が発表する

海道山の山の恐ろしさと低体温症(低体温症の原因、症状と処置について解説)に対する教訓とするよう語られた。

②の行動シミュレーションでは、西穂高の遭難事例を3グループに分かれて討議、各グループの代表が発表しみんなで検討し合い、最後に講師からの提案と解説があった。

③の夏の山の天気の見通し(最新の1ヵ月予報と3ヵ月予報)について「夏山を楽しむために」事前に最新の天気予報を確認する・お天気マークだけでなく予報文を読んでもおく・「早立ち早着き」を心がける・上空の寒気、大気の状態の不安定に注意する。・台風の動きに注意する。

また、7～8月は晴れのつづく日もあり暑さが厳しい。

以上、弱冠の質疑があつて講習会は終了した。

講習会に参加して

やまびこ山会
野坂 あをい

気象遭難対策講習会に参加しました。遭難と気象の深いかわりについて、西穂高岳落雷遭難事故、トムラウシ山遭難事故の2つの遭難事故を例とした講義を受けました。この件につき自分が引率者だったら、という設定で討議しました。その中で、気象の把握が十分であれば、事故を防ぐこと、または被害を最小にすることができるとを理解しました。

現在も山岳事故は頻発しており、様々な要因が重なり原因は一つではありませんが、その大きな要素を占めている一つが「気象」「観天望気」です。

自分の登る山がどんな山か、2～3日前から経過を気象面から把握しておくこと、更に登攀中の雲や風の動き、急な気温の変化など、漠然とはなく意識して観察する経験を重ね、安全登山を実践していきたいと思えます。

◎次回理事会は
10月23日(火)です

CLIMBING PARK 東三河初のクライミング施設



http://climbing-park.com ☎0532-26-3737

住所: 愛知県豊橋市関屋町138番地



住所: 愛知県豊橋市萱町5番地 ☎0532-55-0125 http://www.montania.jp

安心して選べる三河地区
のプロショップ
JR刈谷駅前



登山用品豊富!

穂高

〒448 刈谷市桜町1-13
TEL0566(23)8611
定休日/火曜日
営業時間/10:00~20:00

国際委員総会兼 海外登山研修会報告

JAC東海支部
星 一男

平成30年6月23日(土)と24日(日)の両日、栃木県青年会館コンセーレ 小ホールに於いて、第57回海外登山技術研究会(略:海登研)が開催された。

23日の午後3時から、栃木県山岳・スポーツクライミング連盟会長の石澤好文会長の挨拶を頂いた後、平成29年度海外登山奨励金交付登山隊4隊による報告が行われ、「インド無名岩峰初登頂」を2017グラムスラ峰西壁登山隊の上田幸雄氏が最初に、続いて「シスパーレ北東壁初登頂ビデオ報告」をShispare Expedition2017隊の平出和也氏が映像作成・報告を行った。小休止の後「マナスル東稜登頂」と題して東京農業大学マナスル環境学術登山隊2016が、続いて「K7西峰南西稜初登頂」をGIRI GIRI BOYS K7 Expedition2017隊の長門敬明氏により報告が行われた。

また、資料提供として、池田常道氏による「ヒマラヤ主要登山記録」2017〜2018と、海外登山地情報とし



て、インド、パキスタン、ネパール、チベットの紹介が今回も報告された。
翌24日は午前8時30分より、今回の特集内容である「スキーで広がる登山の世界」として、佐々木大輔氏の「デナリカシシリッジ登攀と南西壁スキー滑降」登山とスキーの可能性と題して報告があった。1994年以来登山とスキー滑降を継続して行い、数回の利尻岳の滑降の後、今回報告の計画にNHKが企画・放映を取り上げた。スキー隊と撮影隊の合計16名による49日間の活動記録と、記録に残る初滑降ルートの記録は圧巻であった。
続いて、「北アルプススキー

- ▼7月3日(火) OMCビル**
〔出席者〕安藤会長、高橋副会長、北村理事長、岩瀬副理事長、相山、高木、栗木、木田、木田(陽)、多田、谷澤、有富、星各常任理事、中平等顧問
- I 報告事項**
1. 天気図作成講習会(6/9安城)
 2. 日山協・SC総会・理事会(6/10東京)
 3. 東海総体(6/15〜17愛知県)
 4. 国体担当者連絡会議(6/19愛知県教育会館)
 5. 国際委員総会兼第57回海外登山研修会(6/23〜24栃木)星
 6. 全国遭対委員長会議・研修会(6/23〜24)高橋

縦走ワンデイ」室堂から槍ヶ岳までと題して、5月3日〜5日間の活動をプロスキヤーの藤川 健氏が報告した。また、山岳スキー大会のビッグレースへ参加した報告があった。イタリア山岳スキー大会 Mezzalama Trophy など海外の大会報告があり、参加者に好評であった。70名を超える参加者と、講師の皆様と運営スタッフの皆様、心より感謝の意を述べ、海登研の報告とします。

常任理事会

- II 審議・お知らせ事項**
1. 気象遭難対策講習(7/10県スポーツ会館)岩瀬
 2. 東海ブロック大会(7/14〜15関市)北村
 3. 東海四県正副会長・理事長会議(7/14〜15関市)
 4. 全国高等学校登山大会(8/3〜7三重県)
 5. 親子ふれあい登山教室(8/19鈴鹿)有富
 6. 第20回JOCジュニアオリンピックカップ(8/11〜13富山県)北村
 7. 全国ルートセッター研修会(8/14〜16富山県)
 8. 高体連夏期大会(8/22〜24県民の森・海老沢)
 9. 県民登山教室・机上(9/11県スポ)岩瀬
 10. 救助技術研修・講習会(9/29〜30御在所岳)
 11. 第45回自然観察会(9/29あいち海上の森)栗木
 12. 県民登山教室・実践(10/13荒島岳)岩瀬
 13. 高体連秋期登山講習会(10/20〜21釈迦ヶ岳)
 14. 安全登山サテライトセミナー(11/3〜4名古屋工業大学)北村
 15. 高体連新人大会(11/10〜11釈迦ヶ岳)
 16. 第22回「遭難を考える」講演会(11/30県スポ)

◆ 9・10月スケジュール

月 日	内 容
9. 4	常任理事会 (OMCビル)
9.11	県民登山教室(机上)県スポーツ会館
9.25	第2回登山勉強会 (豊橋)
9.26	〃 (県スポーツ会館)
9.29	第45回自然観察会(キノコ)海上の森センター
9.29〜30	救助技術研修会・講習会 (御在所岳)
10. 5〜7	福井国体
10. 9	常任理事会 (OMCビル)
10.13	県民登山教室 (荒島岳)
10.20〜21	高体連・秋期登山講習会 (釈迦ヶ岳)
10.23	第3回理事会 (県スポーツ会館)

観光庁長官登録旅行業第490号/(社)日本旅行業協会正会員

ALPINE ツア サービス

海外トレッキング/世界の山旅 専門旅行会社
まずは「ツアーカタログ」ご請求下さい
個人&グループでのご利用お待ち申し上げます

名古屋営業所 TEL : 052-581-3211
〒450-0002 名古屋市中村区名駅 3-23-2 第3千福ビル 3階
FAX: 052-561-8338 E-mail: nagoya@alpine-tour.com
ホームページ <http://www.alpine-tour.com>